



衛生史編纂資料(頭韻部)第六十四師團

一 軍醫部業務概要

師團軍醫部ハ依然湖南省湘陰縣湘陰北側ニ位置シ隷下指揮下部隊ノ衛生ニ関スル復員業務並ニ駐留地ニ於ケル衛生業務ノ指導ニ任シアリ本期間ニ於ケル主要ナル事項左ノ如シ

一 復員ノ為ニ集中地検査

自昭和三十年十月十七日(至昭和三十一年一月十二日)ヨリア及回歸熱検査ヲ師團野戰病院ヲミテ實施セシメ其ノ成績次ノ如シ

被檢人員九二二名 陽性人口六(三日熱 七三三九%)

六八%回歸熱ハ全員陰性ナリ

只自二月二十八日賜管系菌検査(チフス、パラチフス、

赤痢ヲ全項同様實施セシメ全員陰性ナリ

ニ患者輸送ノ狀況

一月下旬師團野戰病院收容患者中一四〇名
(相送五、護送二六、独歩一〇五)ヲ民船ヲ以テ冷
水鋪第百五十五兵站病院ニ後送セシメタルモ爾後
ノ後送ノ輸送關係意ノ如クナラザルト後方兵站
病院患者收容力ノ關係上不能ノ狀態ニアリ
ニ醫官會同

毎月一日醫官會同ヲ實施シ復員業務並ニ駐留
地衛生勤務ヲ指導セリ

三、軍醫部長ハ毎月概ネ一回各部隊(衛生機關)

ヲ巡視シ現地指導ニ任ゼリ

ニ防疫ノ狀況

ハ傳染病患者發生ノ狀況

區分	一月	二月	三月
赤痢	一	三	一
腸チフス	一		
心ヲチフス			
流胞	二	一	
假痘	二		
計	五	三	一

云防痘ノ状況

前記流胞並ニ痘瘡ハ兵團宿營地住民中ニ散
 發ヲ見アリタルヲ以テ一部宿舎ヲ移動シ隔離スル
 ト共ニ集中地檢疫ヲ兼テ種痘ヲ實施セリ

四防痘ノ状況

冬期比較的气温温暖ナリシ為ト藥物ノ十分ナル
 使用不能ナリシ為カコヲラリ了患者ノ發生極メ

ヲ多ク各月共患者總數ノ大半ヲ占メアリタルハ
注意ヲ要スル點ニシテ其ノ狀況左ノ如シ

區	分	一	月	二	月	三	月
患者總數		七	八	九	九	一	一
マラリア患者數		三	三	四	四	六	八
		(三三%)		(四四%)		(六四%)	

本表ハ練兵休以上ノ患者ヲ揚上セリ

之藥物不足ノ為ニ、三ノ部隊ニ於テハ達斗ヲ患者
ニ飲マシメ一時的療治トセリ

五 保育ノ狀況

兵團ノ弱兵約一千名アリ内行軍絶對不能者約
五五〇名ニシテ之ニ對シテハ勤務ヲ輕減スルト共ニ
榮養系統ノ者ニハ部隊ニ於テ増賄ヲ實施シア
リタルモ糧秣ノ補給極メテ不良トナリタル為之モ
不可能トナレリ又之等弱兵ニ對シテハ行軍ガ新舊

集等ニ依リ特別訓練ヲ行ヒ 成果ヲ得タリ

六一般衛生ノ狀況

給水

一般ニクリーク井アラ使用シアリテ水質良好ナラ
ガルモ湘江沿岸ニ宿營セル部隊(四ヶ部隊)ハ
湘江水ヲ使用シテリテ水質良好ナリ

給養

一月中旬以降主食ノ補給極メテ不圓滑トナリタ
ル為主食量四五リ―五リ尾ヲ以テ一日ニ食
制トナシ野草ノ採取及自活ニ依リ若干補足
スルヲ得タリ

而シテ本期間ニ於ケル養價ト体重ノ比較左ノ如シ

區	分		
	一	二	三
養	價	價	價
	平均	二七五 カロリー	二二六 カロリー

体

平均

五七九

五五、四

五五、七

3. 被服ノ状況

夏冬衣袴綿袴共一着宛ナル為冬期モ夏期被服ヲ使用スルノ已モナキ状態ナレリ之ガ為二月頃ヨリ被服程度著シク低下シ且更新不能ナル為補足修理ニ依リ漸ク使用ニ堪ヘ得ル程度ノモノ多シ

冬宿 營

一般ニ民衆ヲ使用シ華人ト雜居シアル為衛生

ニ不備ナル點多シ

二人當占有面積一五——三〇平方米ナルモ一般ニ狹隘ナリ

隘ナリ

八臥床ハ土間ニ敷藁ヲナシアルモ藁ノ更新不能ノ多メ極カ日光曝干ヲナセリ然レ共三月月間

ノ雨季ニ入之モ拘棘セラレシ爲程度極メラ不良
トナリ番ノ發生多シ

七、衛生材料ノ狀況

衛生材料ハ一月當初既ニ三月分ノ保有量ノ下
ナリタルヲ以テ之カ使用ハ極メテ慎重ニ重點的
投薬ヲ行ヒ現在ニ於テハ幸ニ三月分ヲ残ス
ノミナリ

而シ此間特ニ不足ヲ感シタルハ皮膚病治療劑
創傷治療劑、アメルハ赤痢治療劑、マラリア劑、健
胃劑等ナリ

八、接收ニ関スル涉外事項

（五）憲局

二月十四日中國第二十七集團軍ノ命令ニ基キ衛生
材料乳鉢外一ハロ點（八樽）ヲ接收セラレタリ

終リ

